日本農業新聞　令和元年７月23日掲載

農業技術プリズム

イチゴ「ゆめのか」

高設栽培「さちのか」より薬液の丁寧な散布必要

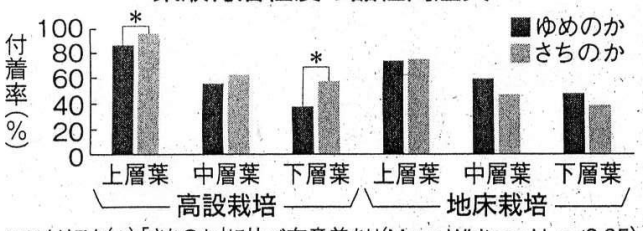
長崎県で推進しているイチゴ品種「ゆめのか」は、これまで主要品種だった「さちのか」と比較し、大果で多収性という特徴があります。一方、生産現場からハダニ類が発生しやすいという声が聞かれます。原因の一つとして「ゆめのか」は「さちのか」と比べ、草丈が高く、葉がやや開帳型で柔らかいため、薬液が付着しにくいことが考えられます。そこで、蛍光顔料を薬液に見たて、イチゴ（高設栽培、地床栽培）に散布し、薬液付着程度の品種間差異を調べました。

試験の結果、高設栽培では「ゆめのか」は「さちのか」に比べ葉裏に薬液が付着しにくく、特に上層葉と下層葉で付着程度に大きな差がありました。一方、地床栽培では、薬液の付着程度に品種間差は認められませんでした（図）。

以上のことから、高設栽培の「ゆめのか」は「さちのか」と比べ、葉裏に薬液が付着しにくいため、薬液が葉裏まで十分に付着するよう、丁寧な散布が必要です。

（長崎県農林技術開発センター環境研究部門病害虫研究室研究員　永石久美子）

イチゴ高設栽培と地床栽培における葉裏への薬液付着程度の品種間差異



アスタリスク（*）：「さちのか」に比べ有意差あり（Mann-Whitney U, $p<0.05$）

※付着率（%）：葉裏に薬液が付着した面積の割合。数値が高いほどむらなく薬液が付着していることを示す